

松川浦における 2017 年の稚魚採集状況と 今後の漁獲加入予測

福島県水産試験場 相馬支場

1 部門名

水産業—資源管理—メバル、イシガレイ

2 担当者

山田学・成田薫・松本陽

3 要旨

今後の資源動向を予測し、資源の適切な利用方法を検討するため、松川浦を稚魚期の生息場とする底魚類の資源加入水準を評価するための調査を行った。2017 年 4 月～11 月にかけて毎月松川浦の 6 調査定点(図 1)において、幅 2m・袋網目合 1.5cm のビームトロール 5 分曳による採集調査を実施し、1 曳網あたりの採集個体数(CPUE)を求め、過去の調査結果と比較した。その結果、2017 年生まれは、シロメバル、スズキの発生水準が高いと推測された。

(1) 2017 年生まれのシロメバルの CPUE は、非常に高かった前年度を超え、きわめて高かった(図 2)。

(2) 2017 年生まれのイシガレイの CPUE は、平年並であった。

(3) 当年のトピックとして、2017 年生まれのスズキがきわめて多く採集された。6～8 月の当歳魚合計採集数は、2007～2016 年までは 0～8 尾であったが(2011 年は欠測)、2017 年は 355 尾であった。今後、このスズキが漁獲量増大につながるか注視する必要がある。なお、7 月でのスズキ 0 歳魚の平均全長は約 10cm であった。



図 1 調査定点

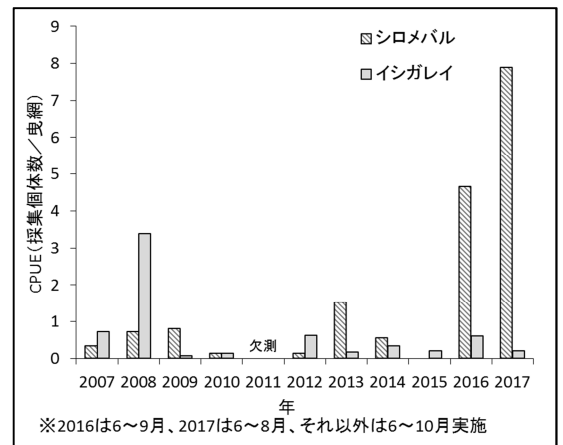


図 2 当歳魚採集密度の推移

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 19 年度～29 年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成 8 年度～28 年度福島県水産試験場事業(概要)報告書